

生活リハビリテーションセンターだより

研修会報告

令和3年度 堺市高次脳機能障害及びその関連障害に対する支援普及事業 第3回研修会 「これからの高次脳機能障害者支援のありかた ～これまでの10年これからの10年～」

3月6日(日) 堺市総合福祉会館において、「これからの高次脳機能障害者支援のありかた～これまでの10年 これからの10年～」の講演会を開催しました。

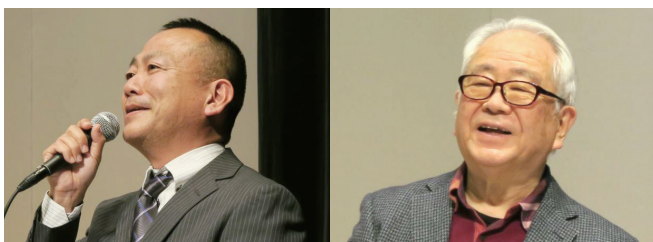


なやクリニック
納谷敦夫先生

第1部では、なやクリニック 高次脳機能外来の医師で当センターの囑託医でもある納谷敦夫先生に「これからの高次脳機能障害者支援のありかた～10年をふりかえって～」と題してご講演をいただきました。納谷先生の

高次脳機能障害支援の原点となったのは1999年の家族の交通事故でした。講演では、当事者家族として、また医師としてこれまで20年間以上にもわたる取組みについて、現在堺市内にある「日中活動の場」、「家族会」、「失語症支援」、「専門外来とグループ認知リハビリテーション」、「就労支援」、「支援拠点機関」、「重度脳損傷者の居場所」、「親なき後の住む場所」のそれぞれの設立から現状、さらに今後の課題まで詳しくお話をいただきました。講演の最後に納谷先生が話されていた障害を受け入れるのではなく「受け止める」という家族としての想いの言葉がとても心に残りました。

第2部では、引き続き納谷先生と市内で最も長い高次脳機能障害支援の歴史を持つ社会福祉法人麦の会 理事長の辻 伯夫様にもご登壇いただき、当センター所長の増田と支援コーディネーターの西脇がファシリテーターを務め「これからの堺の福祉」というテーマで対談を行いました。対談の冒頭には辻理事長より、まだ



社会福祉法人麦の会 理事長 辻 伯夫様(左) 納谷敦夫先生(右)



高次脳機能障害に対する支援制度がない時代から「中途障害者の働きたい・働く場が欲しい」という理念のもと運営されている麦の会の成り立ちについてのお話や、交通事故などの頭部外傷の方や働き盛りの脳卒中の方々の行き場がなかったこと、そのような中で、当事者はもちろん支援者も情報を得る場所がなかった頃の背景を聞かせていただきました。辻理事長がお話されていたように、現在のように様々な新しい資源ができ、情報が容易に手に入れることができるようになったことで、高次脳機能障害についての支援は大きく変わってきたことを改めて感じることができました。さらに対談では、受傷・発症時の年齢によっては介護保険のみの情報提供がなされ、利用可能な障害福祉制度を知らないままに過ごされている方が未だにいらっしゃることを、高次脳機能障害という言葉がひとり歩きしてしまわないように言い方を柔らかくすることで周囲の理解も変わることを、さらに子どもの高次脳機能障害に対しての必要性などその内容は多岐にわたりました。

ご参加いただいた方々のアンケートでは「もっと多くの人に聞いてほしい」「これからの10年を共に考え、支える側になれば」というお声もいただきました。

ある日突然、病気やけがなどで「高次脳機能障害」という言葉を初めて耳にし、この先どうなるのかと不安を抱かれる方々に少しでも安心していただけるよう、納谷先生が大切にされている「寄り添う」姿勢を忘れない支援拠点機関でありたいと改めて感じた講演会となりました。

第4回研修会「明日から使える!脳卒中後の認知機能の低下とその対応方法」

2月9日(水)、第4回研修会「明日から使える!脳卒中後の認知機能の低下とその対応方法」を開催しました。会場とオンラインでの同時開催を予定していましたが、まん延防止等重点措置が発令していたため、今回もオンラインのみでの開催となりました。

脳卒中や頭部外傷などによって生じる記憶障害や注意障害がある方の症状や具体的な対応方法について、当センター作業療法士の中岡より、動画を用いて解説しました。

動画では当センタースタッフが多数出演し、それぞれ

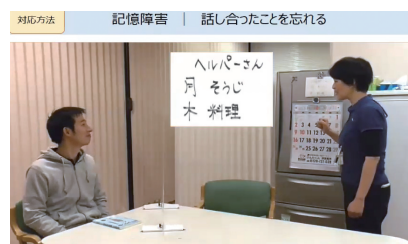


のスタッフの名演技(?)による、日常生活の中で生じる具体的なエピソードとその対応方法につ

いてご紹介しました。

終了後のアンケートでは、動画内でお伝えした「見える化」や当事者様と一緒に考える視点について「今後の支援において早速活用したい」といった感想や、「動画で楽しく学ぶことができた」「動画での具体例がわかりやすかった」など、動画を用いた対応方法の解説についてもご好評のお声を多数いただきました。また「他の事例での対応方法も知りたい」といったご意見もあり、多くの地域支援者が高次脳機能障害者の支援に関心を持たれていると感じることができた研修会となりました。

今後も、高次脳機能障害者の支援につながる発信をしていけるよう努めてまいります。



感染症対策 職員研修 演習編

新型コロナウイルスの感染拡大が収まらず、まだ先が見えない状況が続いており、当センターでも訓練毎の換気や消毒など、感染対策を日々実施しています。

今回、感染症対策の一つとして、おう吐物の処理方法についての演習を行いました。

感染症とは、ウイルスや細菌などの病原体が体内に侵入して増殖し、発熱や下痢や咳などの症状が出ることをいいます。インフルエンザやノロウイルスもそのひとつで、感染症予防対策は現在行っている手洗いやうがい、消毒などと基本的に同じです。食中毒の原因となるサルモネラ菌やノロウイルスはおう吐が主な症状になり、ノロウイルスはたった100個のウイルスが体内に侵入することで発症します。おう吐物の処理は感染拡大を防ぐために重要です。今まで感染症対策として物品の準備や座学での研修は行っていたものの、当センター内でおう吐された利用者様がいなかったため、処理をする機会はありませんでした。しかし、どのスタッフでも対応できるように今回演習を行いました。

実際の演習では、はじめに看護師2人が指示役と処理役となり、マニュアルに沿って、デモンストレーションを行いました。その後、2つのグループに分かれ、指示役と処理役のスタッフが演習をしました。まずは必要物品を準備し、処理役はガウンや手袋、マスクなどの防護具を着用します。その間、指示役は他の方への注意喚起や誘導、換気などを行います。実際の様子に近づけるため、ちぎった新聞紙を水に湿らせたものをおう吐物に見立てて使いました。ガウンの裾を床につけず、汚染範囲を広げないよう

ペーパータオルで覆い、外側から内側にきれいに拭き取るのはなかなか難しい作業でした。おう吐物を拭き取った後は、防護具を全て取り換えますが、汚染を広げないために外す順番や外し方のポイントがあり、その点に注意し、着替えを行いました。次の消毒作業では、おう吐があった場所から2m外側の広い範囲を消毒しなければなりません。この2m外側の範囲は想像よりも広く、2次感染予防の観点から処理役は1人のため、消毒作業もかなり大変でした。

演習後の振り返りでは、より使い勝手のよい物品へ変更することや人員配置などの改善点もありましたが「イメージが付きやすかった」、「マニュアルが分かりやすかった」といった意見だけではなく、繰り返し行うことの必要性をスタッフ全員が感じました。

今回の演習では、災害などを含め、いざという時に適切な対応をするためには、平常時にいかに準備や訓練を行っているかが重要であることを再認識することができました。



新春交流会



利用者様と利用を終了された方の交流の場として、毎年恒例となっている「新春交流会」ですが、今年も新型コロナウイルスの感染拡大状況をふまえ、今回は会場とオンライン（Zoom）のどちらでもご参加いただける形式で、1月14日（金）に開催しました。

第1部 訓練卒業生のお話を聞く

第1部は当センター卒業生の方に、リハビリの開始から復職までの過程、復職後に苦労したことなどについてお話をいただきました。「（高次脳機能障害の影響により）辛いことがあっても言いにくいことがある」といった体験談や、「できることは（仕事の前に）準備するようにしています」といった工夫など、現在リハビリをされている方々の今後の参考になる貴重なお話でした。



第2部 当事者交流会

第2部は「当事者交流会」として、「10年後の自分を語る」「生活リハに通所し始めた自分にアドバイスするとしたら？」など、様々なテーマで当事者様にお話をいただきました。普段なかなか他の方と話をする機会が少ないこともあってか、「他の人がどういう経過で生活リハに通所するようになったのか」「どんな気持ちで通所されているか」等を聞くことができ、「自分と同じような境遇の人の話が聞けてよかった」との声もあり、当事者様同士の交流の大切さを改めて感じました。



第3部 家族懇談会

第3部は「家族懇談会」として、家族様が集まり普段の様子、これまでの経過、今後の不安など、様々な内容をざくばらんにお話いただきました。リハビリに通うようになりできるようになった変化、新しいことに挑戦することの期待と不安、病気・ケガをしてからの友人関係の変化と戸惑い等々、非常に多様な内容のお話をいただきました。



今回は、対面とオンラインでの同時開催でしたが、多くの方にご参加いただくことができました。恒例行事となっている新春交流会ですが、コロナ禍前のおもちつきや体育室でのスポーツ大会を知っている参加者もおられ、惜しむ声も聞かれました。今後も様々な工夫をこらしながら、当事者様・家族様の交流の場が持てるような機会を提供していきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

学習懇談会

12月19日(日)、令和3年度第1回目の学習懇談会を開催しました。新型コロナウイルスの感染拡大により、今年度は開催できずにいましたが、ようやく開催することができました。

今回のテーマは『妻・夫の会』で、当日は当事者様8名、家族様15名と多くの方にご参加いただきました。オンラインと会場とのハイブリッド開催とし、オンラインだから参加できた、という方もおられました。また、毎月の家族懇談会にオンラインで参加された家族様からは、「やっぱり直接皆さんと同じ場で話ができる方が良い。オンラインではなんとなく孤独を感じます。」といったご意見もありました。

限られた時間の中で皆様にご心ゆくまでお話をさせていただくことはできませんでしたが、現在訓練を利用中の方の家族様から皆様にご質問をされたり、利用を終

了して数年経った方の家族様から、最近あったエピソードなどのお話がありました。会の



終わりに、「私が不安だった頃に、先に経験された方からいろいろなお話を聞いて勇気づけられたり参考にさせてもらったりしました。今度は私たちが新しく受傷された方にそれを返していく番だと思います。」というお話をいただきました。また終了後のアンケートでは、「日々ストレスの溜まる毎日をご過ごしておりました。私だけがこんな苦しい・しんどい思いをしななければならないのかと。今日、皆様の大変な日々を聞かせていただき自分も頑張らねばと力をいただきました。」といった感想がありました。

皆様方の力をお借りしながら、今後もさまざまなテーマで学習懇談会を開催していきたいと思っております。

オンラインリハビリ

新型コロナウイルスのこれまで以上の感染拡大により、様々な事情での外出制限によって自宅待機となることも多く、「生活リハの訓練を受けたくても行けない」という利用者様もいら



っしゃいます。そのため、これまでは朝の体操、言語療法(ST)や認知リハビリのグループ訓練をオンラインで実施していましたが、個別の

理学療法(PT)や作業療法(OT)も試行的に実施しました。

今回のPTではストレッチから始まり、筋力トレーニング、バランス練習などの訓練を行いました。セラピストが見本を見せながら40分間しっかりと行くと、2人とも汗びっしょりです。セラピストが身体を直接触れることができないという制限はありますが、オンラインでも充実した個別のリハビリができることが分かりました。通所することができない日の「オンラインリハビリ」についてご興味のある方は、ぜひご相談ください。

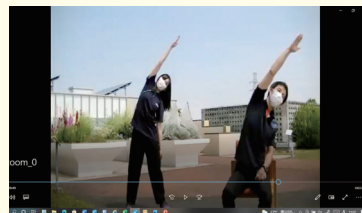
朝の体操

毎朝9時40分から、生活リズムを整えることと身体機能の維持・向上を目的に、オンライン配信で朝の体操を実施しています。

利用者様の障害に合わせて立位でも座位で行えるように工夫し、ラジオ体操やタオルを使用した体操、頭と身体を同時に使う『コグニサイズ』など、曜日によって異なった体操を行っており、参加されている利用者様からは「朝から軽く汗をかけた」「座って片手でもできる体

操をしてもらえてありがたい」などの声をいただいています。

今後は曜日を限定してとはなりますが、引き続きオンラインでの朝の体操を継続していきますので、ぜひご参加ください!



堺市立健康福祉プラザ 生活リハビリテーションセンター

〒590-0808 堺市堺区旭ヶ丘中町4丁3番1号 堺市立健康福祉プラザ内 4F

TEL.072-275-5019 FAX.072-243-0202

■開館時間 9:00~17:30 ■休館日 土・日・祝日・年末年始(12/29~1/3)

<http://www.sakai-kfp.info/>

バックナンバーはこちらから⇒

